

7月に行った学校評価へのご協力、ありがとうございました。『保護者による学校評価』、『児童による学校生活のアンケート』、『教職員の自己評価』の集計結果がまとまりましたので、皆様にお知らせいたします。『保護者による学校評価』では、質問項目に対して「重要度」「実現度」の二項目でお答えいただきました。『児童による学校生活のアンケート』では、規範意識や日常生活に関する質問項目に重点を置いています。また、『教職員の自己評価』では、日常の学校生活や家庭との連携、学校運営への参画等について実現度を自己評価しました。

今回290名の回答をいただくとともに、ご意見もいただきました。皆様からいただきましたご意見については、真摯に受け止め、本校の教育活動に生かしていきたいと考えます。今回実施しました3つのアンケートの集計結果とそこから見えてくる課題について、過日行われました学校運営協議会理事会で討議していただきました。

今回、理事会で出されましたご意見や上高野小学校の今後の課題を保護者の皆様にお知らせするとともに、課題解決に向けて学校・保護者・地域の方々が連携を図り、協力して上高野小学校教育のさらなる充実を目指していきたいと思います。

なお、『保護者による学校評価』と『児童による学校生活のアンケート』『教職員の自己評価』の集計結果は裏面に掲載いたしましたのでご覧ください。

### 理事会での討議内容

#### 【学校からの分析と説明・改善点】

- 「学校は楽しいですか」という児童に対する質問の結果、96%の児童が肯定的な回答をしているが、4%の児童が「あまりできていない」、1%の児童が「できていない」と答えていることは見逃せない。「授業はよくわかりますか」という質問の結果は、95%と肯定的な回答をしている児童が多かった。児童にとって学校生活は充足感が高く、楽しく過ごしていると考えられるが、肯定的な回答が100%になるよう教職員は日々の子どもの様子を細やかに見て、授業改善を行っていくことが大切である。
- 「授業中は人の話をしっかりと聞いていますか」という児童に対する質問では、60%の児童がA評価を付けているのに対し、教職員のA評価はわずか10%である。児童と教職員間での意識の差が大きいので、「しっかりと聞く」というのはどういう姿なのかを具体的に児童に示し、継続・一貫した指導を行うことが必要である。
- 教職員の自己評価を経年比較すると昨年度と今年度では差がある項目が多かった。それは今年度から着任した教職員が多く、集団が変わった事による結果の変化である。「一人一人の子どものもつ個性や可能性を伸ばす学習を展開している」「問題行動の背景を十分に理解し、家庭との連携を図ると共に、校内協力体制で取り組んでいる」という項目に関しては昨年度と比較してA評価が約20ポイント下がっている。これは4月から児童を見始め、3ヶ月間では一人一人に対する適切で十分な支援ができていないと言えないと判断した結果である。今後も児童理解を深め、後期にはA評価がつけられるようにしなければならない。
- 校内整備を進め、各教科の教具などを使いやすいようにし、全教職員が共有できるようにする。
- 給食室内での指導を改め、時間内に食べきれない児童に対しては各教室にて担任が指導を行うようにする。

#### 【理事の方々からのご意見（要約）】

- 子どもへの教育は学校任せにするのではなく、家庭でのしつけが大切である。そのためには周りの大人が見本となる行動をすべき。
- 授業参観のときの保護者の方同士のおしゃべりは授業の妨げになるので控えるべき。
- 高学年にもなると様々な悩みを抱えている児童もいる。デリケートな部分もあるので、教職員は注意深く見守る姿勢が必要である。
- 担任は児童の個性や可能性を伸ばす学習ができるよう背景も含めた十分な児童理解を深めるべき。
- 児童間のトラブルがあったときは、双方から事情を聞き、事実を明確にして保護者に伝えることが大切。
- 高学年になればなるほど学力に差が出てくる。担任は幅広く対応できるようにするため、基礎的な内容から発展的な内容まで授業の中で用意できると良い。

日頃は上高野小学校の教育活動にご理解・ご支援いただきありがとうございます。また、学校評価にご協力いただき、率直なご意見をいただけたことに感謝しております。

さて、ここでは皆様のご意見をいただいたことをふまえて、改めて今年度の上高野小学校の取組について述べさせていただきたいと思います。今年度、上高野小学校は“行動する子どもの育成”“行動する教職員”を目標に取組を進めています。スポーツ活動・文化的活動・もちろん学力向上、等いろんなことに取り組み、結果を残す。当たり前のことかもしれませんが、これらのことは決して「例年通り」「昨年通り」では通用しません。児童の実態をふまえ、ゴールを明確にしつつも、興味関心を途切れさせることなく取り組む必要があります。そのためにはそれぞれのクラスで個々の児童の実態をしっかりと見据え、学校教育目標を最終ゴールとした、学年目標・学級目標、そして、個々の児童の「個別の目標」を設定し、児童の変容(成長)に合わせて方法論を常に見直して取り組んでいます。ただ、今回もさまざまな観点からご意見をいただいたように、今現在では十分満足できる結果は出ていないと考えています。後期に向けて、個々の児童の実態(様子)にしっかりと目が向いているか、個々の児童の実態・クラスの様子を的確に把握できているか、改めて点検し、「個々の児童が自己実現できる学級集団」の育成に改めて取り組んでいきたいと思います。最後になりましたが、個々に頂いたご意見につきましても、今後とも改めるべきところは改め、進めるべきは進めるとしていきたくと考えています。どうぞ今後ともご理解の程よろしく願います。

上高野小学校 学校長 前谷 康孝

